

競 技 注 意 事 項

1. 規則について

本競技会については、2026年度日本陸上競技連盟競技規則を適用する。

ただし、TR4.4(参加の拒否)、TR8.4/8.5(現場での抗議)は適用しない。

TR20.4(シードレーン)は、[国内]を適用し、2023年度までの考え方で番組編成を行う。

2. 練習場および練習について

練習会場利用日程及び注意事項

練習会場	種目	5月22日	5月23日	5月24日	備考	
メイン競技場	トラック	13:00～18:30	7:00～8:15	7:00～8:35	①周回 (アップ・ジョグ不可) 1～2レーン 周回練習	
					②ホームストレート 3～7レーン 短距離 8～9レーン ハードル	
					③第1曲走路～バック ストレート～第2曲走路中央 3～7レーン 短距離 8～9レーン ハードル	
	※フィールド内は使用不可					
		走高跳	13:00～18:30	7:00～8:15	7:00～8:35	天候、状況によって制限あり 砂場の整地は練習者が行う
		棒高跳			7:00～8:35	
	走幅跳	7:00～8:15				
	三段跳			7:00～8:35		
	砲丸投			7:00～8:35		
					安全面に十分配慮する	
補助競技場	トラック	13:00～18:30	7:00～17:45	7:00～17:20	1～2レーン 周回練習 3～6レーン 短距離 7～8レーン ハードル ※ハードルの設置は練習者が行う	
					※芝生フィールド内は動きづくり・メディシンボールを用いた練習で使用可	
		走幅跳		7:00～17:45		天候、状況によって制限あり 砂場の整地は練習者が行う
		三段跳			7:00～13:00	
		走高跳		7:00～10:30		
	砲丸投		7:00～17:45	7:00～9:30		
補助競技場 雨天走路	ランニング	13:00～18:30	7:00～17:45	7:00～17:20		
投てき場	円盤投	13:00～14:30	7:00～11:00			
	ハンマー投	14:30～16:00	11:00～ 競技開始まで			
	やり投	16:00～17:30		7:00～13:00		

(1) 上記の日程表に従って練習する。

(2) 練習は、各チームの監督の管理のもと、指定された場所・時間帯で、事故防止に十分配慮して行う。走練習の時は逆走を控えること。

(3) 練習時間・練習場所は、天候、状況によって変更や制限をすることがある。

- (4) 練習会場には、出場競技者、監督、コーチ以外は立ち入らない。
- (5) 練習会場では、係員の指示に従って練習する。
- (6) 投擲器具の貸し出しは行わないので、各自で持参したものを使用すること。
- (7) 投擲用具を使用した練習は上記の時間・場所以外は認めない。特に、円盤投・やり投・ハンマー投の練習は注意すること。練習中は投げる前に必ず声をかけ、周囲の安全を十分に確認してから行う。
- (8) 本競技場芝生内でのウォーミングアップは禁止とする。
- (9) 練習用スターティングブロックやハードルは 100m のゴール地点にある倉庫のものを使うこと。また練習中に器具を破損した場合は大会本部に申し出ること。

3. 競技場使用について

- (1) 本競技場は、全天候舗装である。スパイクシューズのピンの長さは、トラックでは 9mm 以下、フィールド（走高跳・やり投のみ）では 12mm 以下を使用すること。競技場保護のため、アンツーカー用の先の尖ったニードルピンの使用は禁止する。ただし、スパイク購入時に付属している 5mm 程度のスパイクピンの使用は可能である。建物内ではスパイクで歩かないこと。
- (2) 出場競技者は競技役員の指示に従って入退場すること。
- (3) 本競技場敷地内は禁煙のため、所定の喫煙所に行くこと。
- (4) 競技終了後は競技役員の指示に従い退場すること。正面スタンド前の通行は禁止する。

4. 招集について

- (1) 招集所は本競技場雨天走路（100m スタート側）付近に設置する。
- (2) 各係の指示に従って、各出発地点及び各試技場等で最終点呼を受けること。リレー種目については、全員が本競技場雨天走路（100m スタート側）にて揃って招集を受けること。
- (3) 棒高跳は現地招集とする。
- (4) 招集完了時刻に遅れた者は、棄権とみなす。
- (5) 同時進行種目への出場競技者は、あらかじめ必要事項を記入した「重複出場届」を、招集開始時刻が早い方の種目の招集開始時刻 30 分前までに、招集所に提出すること。なお「重複出場届」は学連受付（正面玄関内）において配布する。
- (6) リレーメンバーに関しては TR24.10〔国際〕を適用し、リレー・チームのメンバーは、どのラウンドにおいてもその競技会のリレー競技または他の種目に申し込んでいる競技者であれば、誰でも出場することができる。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、最大 2 人まで他の競技者と交代することができる。また、オーダーは、学連受付（正面玄関内）、招集所にて配布する「リレーオーダー用紙」に必要事項を記入して、各ラウンドの各組の公表された first call time（その時間までに競技者が招集所にいなければならない時刻）までに招集所に提出すること。
- (7) 混成競技の招集について、各日第 1 種目の招集を招集所において行う。

5. 棄権について

- (1) 出場競技者の棄権は、予め代表者会議（5月22日（金）15:00より石川県営西部緑地公園陸上競技場会議室で行う。）で届け出ること。代表者会議までに把握した欠場者の人数によって、番組編成を変更する可能性があるため、できるだけ申告すること。
- (2) 当日やむを得ず棄権する者は、学連受付（正面玄関内）にて「棄権届」に必要事項を記入し、招集開始30分前までに招集所に提出すること。

6. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは本大会で配付したものを使用すること。
(本大会で配付したアスリートビブスは、第57回北信越学生陸上競技秋季選手権大会でも使用するので、加盟校または登録競技者において保管すること。)
- (2) アスリートビブスは、胸・背両面につける。1500m、3000mSC、5000m、10000m、5000mWの出場者は、胸・背両面に招集時に配付される通し番号のアスリートビブスをつけること。ただし、跳躍競技においては、胸または背のどちらか一方でもよい。
- (3) 4x100mリレーは第4走者のみ、4x400mリレーは2~4走者が腰ナンバー標識をパンツ右側につけること。

7. 競技用器具について

- (1) 競技に使用する用器具は、すべて主管者側が用意したものを使用すること。ただし、投擲物一覧に記載のない投擲用具とポールについては、当日事前に検査を受け、使用許可を受けたものに限り個人所有のものを使用することができる。
- (2) 個人所有の投擲物は用器具庫にて競技開始時刻の2時間前からの30分間で検査を受けて許可されたものでなければ使用できない。学連受付（正面玄関内）にて「検査申請書」に必要事項を記入し、用器具庫へ向かうこと。検査を受けた投擲物は借り上げ式とし、競技者全員が使用することができる。なお、ポールの検査は最終コール終了後、現地で行う。
※ただし、女子円盤投は検査時間が他と異なるため、下の表の記載に従うこと。

投擲物

日付	種目	開始時刻	終了時刻
5/23	女子円盤投 ※	7:15	7:45
5/23	男子円盤投	9:20	9:50
5/23	十種競技男子砲丸投	10:50	11:20
5/23	女子ハンマー投	12:10	12:40
5/23	七種砲丸投	12:40	13:10
5/23	男子ハンマー投	13:50	14:20

5/24	十種円盤投	8:00	8:30
5/24	女子やり投	9:30	10:00
5/24	七種やり投	9:30	10:00
5/24	男子砲丸投	9:50	10:20
5/24	男子やり投	11:10	11:40
5/24	女子砲丸投	12:20	12:50
5/24	十種やり投	13:00	13:30

(3) 競技用靴について、TR5の規定（競技用靴に関する規程を含む）を十分に留意すること。

8. 競技について

- (1) 競技中における助力は「日本陸上競技連盟競技規則 TR6」に則り規制される。これに抵触する場合は審判長から注意・警告をするが、是正されない場合はその種目から除外される場合がある。
- (2) 競技中における失格は「日本陸上競技連盟競技規則 TR7」に則り規制される。競技者がある種目でCR18.5に定める競技者にあるまじき行為あるいは不適切な行為等、あるいはTR16.5により2度目の警告を受けた場合は失格となる。特にスタートの遅延行為がこれに該当するため注意すること。もし、2度目の警告が違う種目で行われた場合は2度目の種目で失格となる。

(3) トラック競技

- ①レーン順はプログラム記載通りとする。
- ②短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
- ③スタートの合図は英語で行う。
- ④不正スタートは1回で失格とする。但し、スターターの号砲以前の動きは注意のみとする。
- ⑤男子 10000mはグループスタートで行う。
- ⑥男女 5000m、男女 10000m、男女 5000mWについては時間制限を設ける。それぞれ以下に示した時間までに残り一周に到達しない場合はレースを打ち切ることとする。

	5000m	10000m	5000mW
男子	20分	40分	30分
女子	25分	45分	30分

(4) リレー競技

- ①4x100m リレーの競技者は、自らが用意した大きさが最大 50mm×400mm の粘着テープを1箇所、自らのレーン内に貼ることが許される。それ以外のマーカーの使用は認められない。その撤去は使用したチームが責任をもって行うこと。
- ②リレーに出場するチームは、同一のユニホームを着用すること。

(5) フィールド競技

- ①フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の手配に従うこと。
- ②跳躍種目及びやり投の競技者は、助走路の外側（走高跳は助走路内）に主催者が用意した規定のマーカを2個まで置くことができる。ただし、走高跳のマーカは競技者が用意すること。また、砲丸投・円盤投・ハンマー投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカを1つだけ置くことができる。これらの撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。
- ③三段跳の踏切板の位置は、男子は12m、女子は9mとする。
- ④棒高跳の競技者は、希望するアップライト位置を競技開始前に跳躍審判員に申し出ること。
- ⑤走高跳および棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	以降
男子走高跳	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	+3cm
男子棒高跳	2m80	3m00	3m20	3m40	3m60	3m70	+10cm
女子走高跳	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	+3cm
女子棒高跳	2m20	2m20	2m40	2m60	2m80	3m00	+10cm

混成競技の走高跳及び棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目・種別		練習	①	②	③	④	⑤	⑥	以降
十種競技	走高跳	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	+3cm
		1m80							
	棒高跳	2m20	2m40	2m60	2m80	3m00	3m20	3m40	+10cm
		3m60							
七種競技	走高跳	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	+3cm
		1m40							

(注) 第1位決定試技の際のバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。優勝が決まった後にバーを上げる場合は、競技者は当該審判員あるいは審判長に希望の高さを申し出てから高さを決定する。

⑥男女ハンマー投の試技順は、女子を先とする。

(6) 混成競技

混成競技に参加する選手の待機場所は、本競技場の雨天走路内に設置する。

9. 抗議について

競技進行中に起きた競技者あるいはチームの行為、または順位に関する抗議については、その競技者あるいはチームの監督が、その種目の結果の正式発表（アナウンス）後 30 分以内に、次のラウンドが行われる競技では 15 分以内に、学連受付（正面玄関内）に申し出ること。その後、担当総務員を通して口頭で審判長に行う。その間抗議者は学連受付（正面玄関内）で待機すること。抗議の申し出の際には抗議確認書に必要事項を記入すること。

10. 携帯電話等通信機器の持ち込みについて

TR6.3.2 よりビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD プレイヤー、トランシーバーや携帯電話もしくはそれらに類似した機器の使用を競技区域内で所持、また使用するような行為は助力とみなし警告または失格になりうる。

TR6.4.5 フィールド種目に出場している競技者が、当該競技者に代わり競技区域（TR6.1〔注意〕参照）の外にいる者によって録画された試技の映像を見ること。その録画再生機器や録画映像は、録画映像を提供する者のすぐ近くの位置であれば競技区域内に持ち込むことが認められる。画像をより詳しく見るために、競技者は画像を撮影した人とコミュニケーションを取りながら録画再生機器を手にしても良い。

11. 表彰について

- (1) 表彰は各種目 3 位まで行う。該当する者は競技成績発表（アナウンス）終了後、表彰を行うので、各学校の公式ジャージ等を着用するうえ表彰待機場所（1 階）に集合し表彰係の指示に従うこと。該当者が他の競技に出場し、受賞出来ない場合は所属校から代理を出すこととする。その際に、表彰係に代理人であることを申し出ること。
- (2) 各種目 4 位～8 位の賞状は学連受付もしくは表彰待機場所に用意するので、各校の代表者は取りに来ること。
- (3) 最優秀選手（男女各 1 名）、優秀選手（3 名）にはトロフィーを授与する。
- (4) 対校得点は、1 位 8 点、2 位 7 点、以下 6、5、4、3、2、1 点とする。
- (5) 総合得点が同得点の場合、1 位種目の多い学校、それでも決まらない場合は 2 位種目の多い学校、以下 3 位、4 位、5 位、6 位、7 位、8 位、4×100mR の成績、4×400mR の成績で決定する。

12. 天皇賜盃第 95 回日本学生陸上競技対校選手権大会へのエントリーについて

各種目優勝者には 9 月 5 日（土）～7 日（月）まで、横浜日産スタジアムで行われる天皇賜盃第 95 回日本学生陸上競技対校選手権大会の出場標準記録のうち、C 資格者として参加する権利が与えられる。

なお、本項目については、同大会主催の公益社団法人日本学生陸上競技連合による開催要項において C 資格に関する規定に従う。

13. その他

応急処置について

競技中の事故等による身体の故障の場合、医務員が応急処置を行うが、その後の治療は本人または所属チームの責任で行うものとする。また、事故の結果について、本連盟は一切責任を負わないものとする。テーピングは自己負担とする。

ただし 2026 年度公益財団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。保険の適用に関する問い合わせは、学校受付（正面玄関内）に申し出るか、〈hokusinetsugakuren@gmail.com〉に連絡すること。

TR：公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則（Technical Rules）

CR：公益財団法人日本陸上競技連盟競技会規則（Competition Rules）